フィリピン工場増強

ナカシマプロペラ 新管理棟や設備導入



船舶用プロペラ最大手のナカシマプロペラ（岡山市東区上道北方）は、フィリピン工場を増強している。これまでに管理棟を建て替えたほか、機械設備を導入。今後、生産体制の見直しを進め、業務の効率化と製品の品質向上を図る。

フィリピン工場は、首都マニラの南西約30キロのカヴィテ州に立地し、グループ会社のナカシマフィリピンが運営。主に漁船やプレジャーボート、作業船などに用いられる直径2メートル以下の小型プロペラを手掛けている。生産能力は重量換算で月60トン。半分程度を日本向けに出荷し、残りは東南アジアや欧米に輸出している。



総務や設計部門集約のため新築した管理棟

管理棟は鉄骨2階延べ約1800平方メートルで今月完成した。従来棟（同平屋約400平方メートル）と、製造工場計3棟に分散していた総務や設計部門の計約50人を集約する。工場の空いたスペースは順次改装して製造部門に充て、食堂が入っていた別棟（約600平方メートル）を工場に建て替える方針。

フィリピン工場では昨春以降、プロペラの3次元曲面を高精度に削る翼面加工機や、金属を切削加工するNC（数値制御）旋盤を導入。これらを含めた総投資額は約2億円。

同工場は、同社が2009年に買収したミカドジャパン（三重県）の製造拠点として1990年に稼働。現在、従業員は約340人で、年間売上高は17００万ドル。

ナカシマフィリピン社長を兼ねる中島英晶役は「品質向上で欧州や中国の富裕層で人気が高まっているプレジャーボート用プロペラの販路拡大を図る。ASEAN共同体の発足でアジアでの物流増加も期待でき、早期に売上高を2千万ドルに高めたい」と話している。（内田光祐）

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。

2016年2月27日　山陽新聞朝刊　7ページ